

水害・土砂災害に備える

自分の身を守るために



日高川 橋山ダム

近年、地球温暖化の進行にともなう増加傾向にある台風や集中豪雨により、水害・土砂災害の発生リスクが高まっています。

本県においても、平成23年の紀伊半島大水害など、多発する集中豪雨などにより浸水被害、土砂災害が多数発生しています。

このような台風や集中豪雨による被害を軽減するため、県では、予算を増額して河川や土砂災害防止施設の整備を進めています。また、大雨が予測される場合に、ダムの水を事前に放流する協定を関西電力(株)と締結し、全国に先駆け実施するなど全力で取り組んでいます。

しかしながら、治水施設や土砂災害防止施設の強化を進めても、施設では防ぎきれない大洪水は必ず発生します。災害から身を守るためには、県民一人ひとりが「自らの命は自らが守る」という意識を持ち、日頃から正しい知識と情報を得て、落ち着いて迅速な行動ができるよう備えることが大切です。

問 県庁河川課 073-441-3134
県庁砂防課 073-441-3171

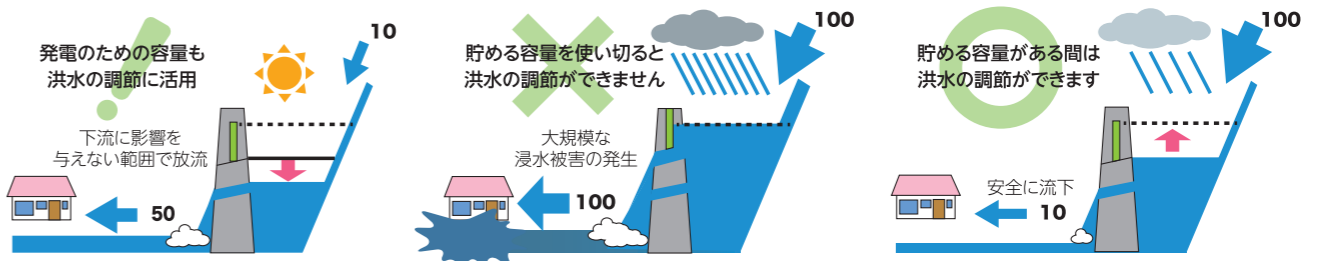
ダムの洪水調節

洪水調節
ダムに流れてくる水の一部を貯め、下流への放流量を調節することで安全に流下

異常洪水時防災操作
ダムが満水に近づくと、決壊を防ぐため流入量と同量の水を放流することになり、下流で大規模な浸水被害発生のおそれ

事前放流
ダムが満水になるような大雨が予測される場合、事前に水位を低下させ容量を拡大

事前放流の対象となるダム
和歌山県管理：三川ダム、橋山ダム、七川ダム
関西電力(株)管理：殿山ダム



ダムでは事前放流など洪水に対して備えています。異常な洪水が発生し、ダムが満水に近づくと、やむを得ず「異常洪水時防災操作」に移行し、下流で大規模な浸水被害が発生するおそれがあります。

危険を知ろう

水害・土砂災害から身を守るために、地域にどのような危険性があるのか事前を知っておくことが重要です。

水害の危険性の把握

浸水が想定されている区域を知る

近年、大雨や短時間強雨の発生頻度が増加し、全国各地で毎年のように甚大な洪水被害が発生しています。

これまでは、河川整備において基本となる降雨を前提として洪水浸水想定区域図を作成、公表してきましたが、平成27年5月に水防法が改正され、想定最大規模降雨による洪水浸水想定区域図を作成、公表することとなりました。

県が管理する洪水予報河川と水位周知河川を合わせた20河川のうち、有田川などの7河川については平成31年2月に、古座川など13河川については令和2年2月に、想定最大規模降雨による洪水浸水想定区域図を作成、公表しました。

なお、洪水浸水想定区域図は、対象河川の洪水に伴う氾濫を想定していますが、平成23年の紀伊半島大水害で発生したような土石流や流木に起因する河道閉塞による氾濫はその不確実性が高く、予測が困難であることから考慮していませんので、ご留意ください。

県管理河川(20河川)
橋本川、和田川、亀の川、日方川、加茂川、有田川、広川、山田川、日高川、印南川、切目川、南部川、左会津川、富田川、日置川、周参見川、古座川、太田川、那智川、熊野川
(参考)国管理河川(4河川)
紀の川、貴志川、熊野川、市田川



和歌山 和歌山市 (平成24年6月梅雨前線)

熊野川 新宮市 (平成23年9月台風第12号)

お住いの地域の情報を把握しましょう

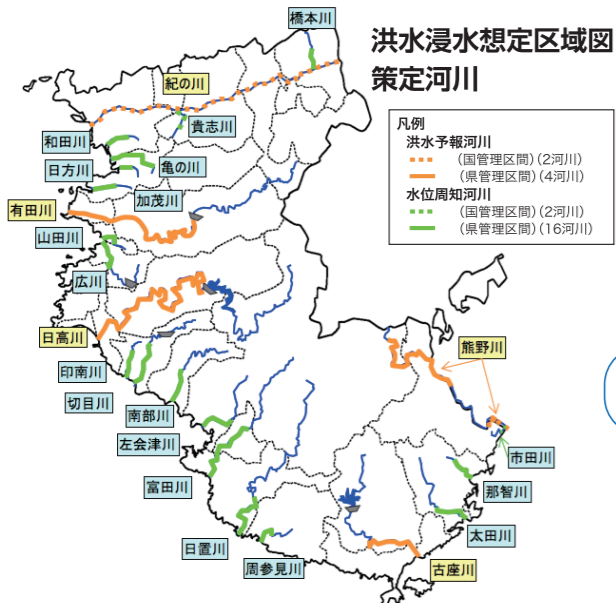
洪水浸水想定区域図は、県WEBサイトでご確認ください。

- 浸水区域、浸水深の情報
- 浸水継続時間の情報
- 家屋倒壊等氾濫想定区域の情報



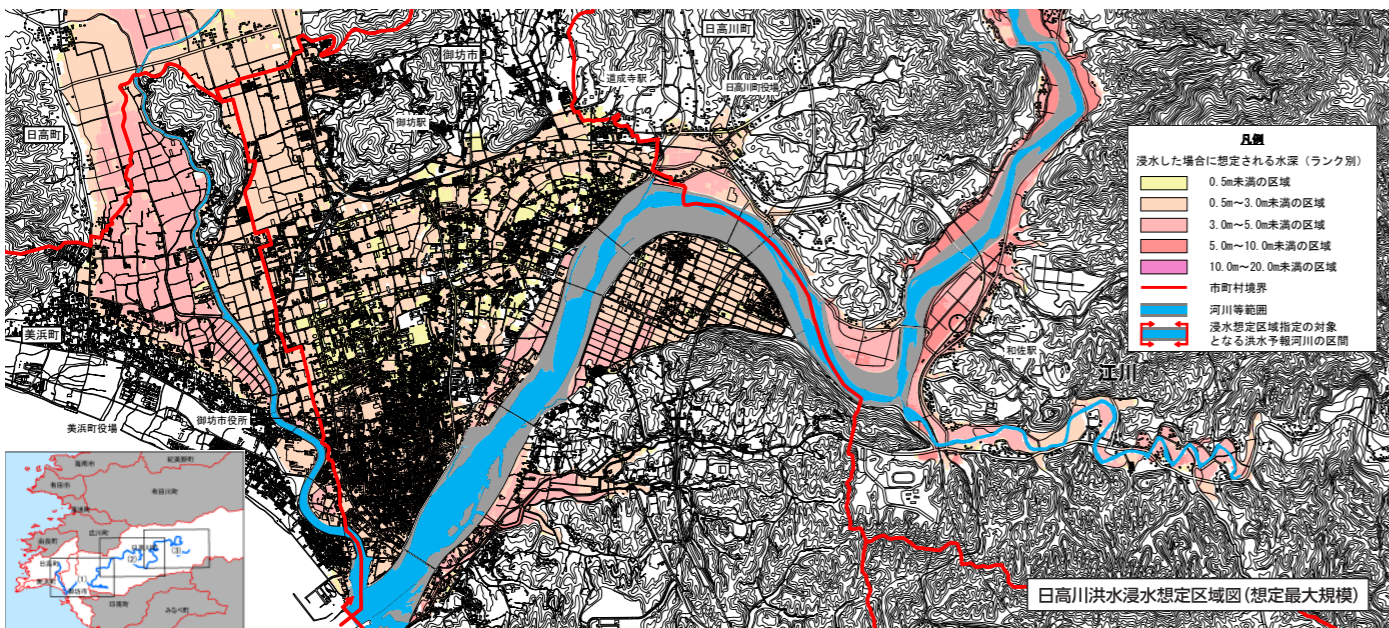
和歌山県洪水浸水想定区域図

洪水浸水想定区域図 策定河川



洪水予報河川 流域面積が大きく、氾濫すると相当な被害を生ずるおそれがある河川
水位周知河川 洪水予報河川以外の河川で、氾濫すると相当な被害を生ずるおそれがある河川

洪水浸水想定区域図(想定最大規模)



日高川洪水浸水想定区域図(想定最大規模)